

新生児聴覚スクリーニング検査の費用の一部助成が始まります。

○新生児聴覚スクリーニングとは

異常の早期発見を目的としています。先天性難聴の出現頻度は1000人に1～2人とされており、他の先天性疾患に比べて頻度が高いことが特徴です。日本では、新生児聴覚スクリーニングで難聴が疑われて全国の精密検査施設を受診する赤ちゃんは年間約4000人います。このうち、約2000人が両耳難聴、または、片耳難聴と診断を受けます。聴覚の異常を早期に発見することにより、適切な治療・支援・指導の方針を立てることができ、よりスムーズなコミュニケーション能力の獲得につながると期待されています。

対象者

- ・令和3年4月1日以降に出生し、検査を受ける当日に大網白里市内に住民登録がある次のどちらか
①妊婦が出生した生後50日以内の赤ちゃん
②生後50日以内の赤ちゃん

対象検査

- ・生後50日までに初めて受けた新生児聴覚スクリーニング検査（保険診療は対象外）

助成額

- ・初回検査に要した費用のうち3,000円
※検査費用が助成額を上回った場合の差額や、2回目以降の検査費用は自己負担となります。

受診方法

- ・通常、産後24時間以降～退院までの間に実施することがほとんどです。医療機関等により受診方法が異なりますので、入院中に受診票を医療機関へご提示ください。入院中に実施できなかった場合は外来で実施できる県内の医療機関をご案内いたしますので、健康増進課まで問い合わせください。

注意事項

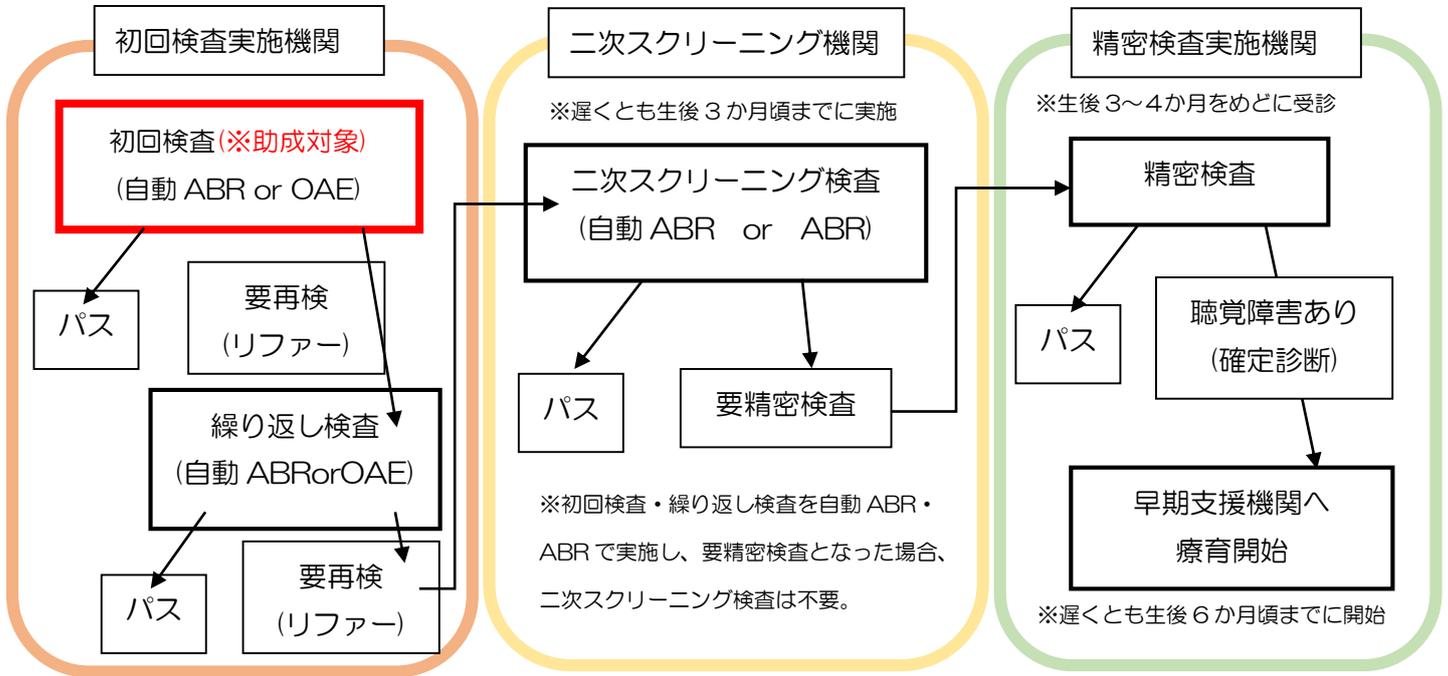
- ・里帰り出産などで、大網白里市と契約していない医療機関等で検査を受ける場合、受診票を使用することができません。妊婦健診（契約依頼、または、償還払い）と同じ扱いとなりますので、詳細は裏面をご覧ください。

問い合わせ先

大網白里市健康増進課（保健センター内） 0475-72-8321

○検査について

出生後 24 時間以内に検査を行うと、中耳内の羊水残存などにより、偽陽性率が高くなります。また、初回検査で「要再検（リファア）」の場合、退院までの間に「パス」が出るまで繰り返し検査を実施します。これらのことから、生後 2～4 日に初回検査を実施することが適当です。流れは下図の通り。



※パスの場合、検査終了となりますが、引き続ききこえや言葉の発達に注意

自然睡眠下で行います。授乳後などの熟睡した状態の方が検査時間を短縮でき、正確な結果が得られやすいとされています。時間は数分～10分程度。

○検査結果は母子健康手帳に次のように記載されます。 ※大網白里市で交付された母子健康手帳をお持ちの方は P17

検査項目	検査年月日	備考
先天性代謝異常検査	年 月 日	
新生児聴覚検査 自動 ABR・OAE リファア（要再検査）の場合	〇〇年〇〇月〇〇日 年 月 日	右（パス）リファア 左（パス）リファア

※検査結果を記録する場合は、保護者に説明し同意を得ること。

○注意事項

- ・「要再検（リファア）」ならば全て難聴というわけでは決してありません。
- ・新生児聴覚スクリーニングはあくまでもスクリーニングですので、難聴があるかどうかは未確定です。
- ・精密検査が必要とわかって、決して慌てる必要はありません。生後 3 か月頃までに精密検査を受けられるように、受診していきます。
- ・必ずしも「パス＝生きこえている」ということではありません。これからの成長の過程で中耳炎やおたふくかぜの合併症として難聴を発症することや、先天性の原因でもあとから難聴がでてくる場合があります。きこえの状態はことばの発達に重要です。検査後も引き続き、きこえの状態をみましょう。